

令和3年度 第1回 内野小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和3年4月27日（火） 14時00分から15時50分まで
- 2 開催場所 浜松市立内野小学校 会議室
- 3 出席委員 10人
(吉岡 久子、桑原 富雄、岡田 正利、中道 達哉、松本 直美、橋本 志帆子、作田 悠佳、平野 岳子、山口 暢子、岸 美香)
- 4 欠席委員 0人
- 5 学 校 5人
(川村 寿満【校長】、谷野 幸代【教頭】、清水 大輔【教頭】、藤社 美波【主幹教諭】、酒井 綾乃【CS ディレクター】)

6 傍聴者 0人

7 協議事項

- (1) 会長の選出及び副会長の指名について
- (2) 議長の選出について
- (3) 浜松市のコミュニティ・スクールについて（教育総務課 堀田指導主事）
- (4) 内野小学校運営の基本方針について（校長）
- (5) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

8 会議録作成者 CS ディレクター 酒井 綾乃

9 会議記録

- 委員自己紹介
- 校長挨拶

全委員の参加に感謝。勤務校の紹介。職員と力を合わせて子供の成長に携わっている。地域の力を借りながら子供たちが安心・安全に学校に通えるようにしていきたい。協力をお願いしたい。

- 委嘱状等の確認

(1) 会長の選出及び副会長の指名について

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、岸委員から岡田委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承知した。また、その後、会長に選任された岡田委員から、山口委員を副会長に指名する旨の報告があった。

(2) 議長の選出について

本日の議長については、会長の岡田委員に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(3) 浜松市のコミュニティ・スクールについて（教育総務課 堀田指導主事）

- ・ コミュニティ・スクールとは、子供たちの幸せのための活動。
- ・ 新学習指導要領では、予測不能な社会を生き抜く子を育てるために付けたい力について書かれている。
- ・ 特色ある学校づくりの一つとして、内野小の合鴨稲作の体験は、地域の力を借りて

豊かな学習経験ができるよい例である。

- ・ 委員は1回の再任を含めて6年継続が可能。自ら動く最大の応援団として、持続可能な支援の継続ができる。
- ・ 初年度は、できることを探しながら活動していけると良い。

(4) 内野小学校運営基本方針について（川村校長）

議長の指示により、川村委員（校長）から、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 言葉が抽象的になりがち（「きらきら輝く」「うつくしい心」等）
- ・ 「個性」や「人権」は、社会人としてのルールを意識した上で過度にならないように主張したい。
- ・ 「みんなが笑顔で安心してすごせる地域としたい」という自分の考えとCSの理念が合致している。子供たちに社会の基盤として「自治会」「町内会」が何をしているのか知ってもらいたい。（以上、岡田委員より）
- ・ かつては、学校は読み書きそろばんを教えるだけで良く、地域や家庭が教育力をもっていた。地域の中でも互いに支え合っていた。子供は地域の教育力を学んで成長したが、現在は人とのつながりが足りない。
- ・ 全てを学校教育に求めている現状が、課題になっている。文部科学省は本当ならば地域の教育力で子供を育てるべきところを、CSの制度で、再度地域におろそうと考えているのではないか。
- ・ 即効性があるわけではないが、子供のために何ができるか一緒に考えていくことが大切ではないか。
- ・ 学校への要望もあるので、積極的に伝えていきたい。（以上、中道委員より）
- ・ SBS放送でCSの紹介を行っていた。このように、情報を地域に発信していくことが大切だと思う。（桑原委員より）
- ・ 学校行事の形が変わったり減ったりしてきている。競争が苦手な子供への対応の難しさはあるが、そのような経験を乗り越えることや、その子供を周りで支えることができるようになることも大切。行事で自分を発揮する子供もいるので、競争を経験することができる行事が無くなってしまふのは寂しい。できてもできなくても応援する親の楽しみも減っている。コロナ禍の中で、親が一生懸命応援できる行事を検討してほしい。（山口委員より）

最後に、校長が示した学校経営方針について承認を求め、全員一致で承認された。

(5) 夢育やらまいか事業に対する意見書について（谷野教頭）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

○ その他の協議事項等

- ・ 大人に交じってAEDを操作するなど、防災体験を消防団と協力して行うことが可能ではないか。
- ・ 自転車のマナーを教える場が必要だと考える。人数の関係で学校での開催は難しいと思うが、土日に警察の交通課を活用して、染地台の多目的広場等で開催することが

可能ではないか。

- ・ 地域の祭り、サロンなどの行事を、内野・内野台・染地台が別々にやっているが、まとまってやれるとよい。(以上、岡田委員より)
- ・ 集団登校の様子が悪い。4列、ヘルメットのあごひもを外している、間が空く…等心配である。子供会に話をしたが、改善が見られない。学校に送り出したから学校に任せるといふ親も多い。全て学校に任せるとはならず、学校に着くまでの道のりを保護者が見ていくことが大事。地域も含め、みんなで見守りたい。(作田委員より)
- ・ 毎年安全教育員が変わり、委員になってから子供たちの実態を知って驚くことが多い。人が欲しいので、ボランティアの協力をお願いしたい。
- ・ 交通安全のボランティアが30名弱。(浜名小学区は90名)実態を踏まえて、CSで、できることを増やしていけると良い。(平野委員より)
- ・ 交通安全については、町内会長、自治会長に現状を伝え、お年寄りにも声掛けするようにしたい。子供会だけに任せきりにせず、町内会長・自治会長に伝えるべきだと考える。特定の人だけにボランティアを依頼するのは難しいので、人数を増やすために、HPや回覧板でボランティアを募集したい。(岡田委員より)
- ・ 帰りの挨拶はできる子が増えたように感じる。(桑原委員より)
- ・ シニア内野台60人。CSの話をしていても分からない。60代、70代の人を集め、染地台の人を集め、サロンを立ち上げている。来年度以降、地域と学校など交流のための基盤を作りたい。(吉岡委員より)
- ・ 登下校の安全については、学校としても課題だと考えている。この場で話できたことは有意義だった。今回の話を地域に戻って多くの人に話していただき、次回の学校運営協議会で様子を教えていただきたい。(校長より)
- ・ 次回は6月18日(金)13:00から、第2回内野小学校運営協議会を開催する。5時間目の学習の様子も見ていただきたい。(教頭より)

以上、この会議録が正確であることを証します。

令和3年4月27日